

5・7・5に乗せて



竹の子川柳会

おまつりでこころたのしいジャンプする
 ゆきがつせんできるといいなともだちと
 ぜったいに夢をかなえる少しづつ
 生えてゆく芽がどんととホウセンカ
 次々とドア開けながら歩んでく
 心の戸開けた先には可能性
 したいこと生きる間にやるんだよ
 いきいきとかかとはずまず体育祭
 雨がやみ青空写る水たまり
 一度きりの人生だから楽しもう
 いきいきと子らを見守る桜の木
 鬼北町森がいきいきしているよ

小二 勇斗
 小二 みるく
 小三 心春
 小四 太清
 小四 翔太
 中一 清也
 中二 海士
 中二 海斗
 中三 ななみ
 高二 瑠依
 高二 ちひろ
 高三 沙耶

ひよし川柳会

野仏に野の花供え手を合わす
 春一番いやな花粉も連れてくる
 いいことがあって靴音リズムカル
 入試合格一足早く春が来る
 すり減って暮らし支えた靴の底
 春一番吹いて野山が目覚ます
 春うららなぜか心も踊りだす
 もう一年米作ろうか春田鋤く
 じわじわと冷気奏でる霜の朝
 じわじわと狙い定めて進む猫
 親の意見漢方薬のように効き
 じわじわと押されるような老いの坂
 昔の山温和しかった杉の花

中城 英雄
 米子 達雄
 山本 雅之
 宮川 柳酔
 渡辺 光男
 川添 忠昭
 伊勢本 恵
 熊本 忠真
 宇都宮 忍
 水野すみこ
 大崎 五葉
 兵頭 好子
 若宮 賢敬

鬼王丸のほのぼの日記

作・榊形 浩人
 絵・にのみや なつみ



鬼北の足跡をたどる



奈良山に咲くシャクナゲ

「威厳」「荘嚴」。これは「シャクナゲ」の花言葉です。ツツジの仲間、主に山地、標高1,000m付近に自生するシャクナゲは、言わば「高嶺の花」であり、神々しいイメージを持たれることもあります。

実際、山の信仰とも関係が深く、修験道（「修験」の道。山中修行により自然エネルギーと同化する）では、護持の対象とされています。修験道の山中修行では回峰行かいほうぎょうといい、山の峰々の聖地（山岳密教等に基づき設定される）を巡拝する修行があります。この回峰行というのは春と秋の年2回山に入ります。このうち春にちようど咲いているのがシャクナゲであり、山伏（山を生業としている人。ここでは山中修行する人を指す）は、シャクナゲを持って、峰々の聖地にシャクナゲを供えながら廻っていくといえます。現在見られるシャクナゲは山伏により繁殖され、その後野生化したものと考えられています。

奈良山（鬼が城山系）でも新緑の季節、毎年5月初旬に見頃を迎え、白や淡い桃色、桃色の花を咲かせます。葉を見つめると表は光沢をもった深緑色で、堅くツルツルしていますが、裏は淡い橙色をし、柔らかな肌触りです。こうした特徴から、葉の表は密教でいう金剛界（大日如来の知恵の働きを示す「堅固なるもの」、裏は胎藏界「理性の働きを示す「母親の存在のようなもの」に例えられます。



▲奈良山に咲くシャクナゲ